



昭和 43 年より発足した塩田賞の副賞としての銀メダルの表面に刻まれている塩田広重先生のレリーフ像

## 塩田賞の由来

雑誌「医療」に掲載された論文からすぐれたもの数編を選び出して授賞しようという案が持ちだされたのは昭和 42 年 1 月 20 日の編集会議の席上であった。この提案は同席した全員の賛成をえて早速その授賞の具体化が練られることになった。そしてこの論文賞は塩田賞という名称で同年 10 月 14 日の第 22 回総合医学会の総会にはかかれて実現することとなった。

「医療」の原稿は、当時、自発的の投稿はまったくといってよいほどなくて編集室で四苦八苦して会員諸氏に投稿を依頼していた。論文は文字通り会員諸氏の汗の結晶であろうと感謝しているわけである。このような状態が数年来続いたので、無理にお願いしていただく論文のために厳重な投稿規程も大目にみることにになり、またときにはその内容もある水準を保つことの困難な傾向も指摘されていた。そこで何か賞というようなものを設けたら会員の投稿論文も増し、また優秀な論文を書き上げてやろうという意欲もかきたてられるのではあるまいかというせっぱつまった念願がこの企画を生んだのである。

さて医療同好会の生みの親は初代の医療局長官であった塩田広重先生であることは周知のことである。雑誌「医療」の創刊は昭和 21 年 10 月でこの創刊号の巻頭に塩田先生の発刊の辞がのっている。漢字が多くてむずかしい文章であるがその趣旨は次のようなことである。「国立病院、国立療養所が一般国民の医療にあたる使命をおびて戦後に新しく発足した。これはただ医療にあたるということだけ

ではない。ここに勤務する医師は大いに医学の重要問題の研究もし調査もしなければいけない。また若い医師の修練、教育や一般医師の再教育の任にも当たらなければならない。そこでここに新しく雑誌「医療」を発刊して病院、療養所における実地経験や研究業績その他細大もらさず掲載して世界的最良の雑誌の一つとしたいものである」というのである。まことに塩田先生らしい一流の抱負でこの文章を読んでいても気分がよくなるようなものである。

塩田先生はまた当時は医療研究会と呼ばれていた現在の国立病院、療養所総合医学会を創設されてその発展につくされたことは古い会員諸氏は懐かしく思い出されることと思う。先生はこの学会で座長席につかれて口演者の演説をよく聞いておられて、演者の持ち時間が切れると大声で「もうそれまで」とピシャリと発言を打ち切られるというやり方は若い医師達に研究発表というものは如何に要領よく時間内で論旨を徹底させるかということをも身をもって教えられたものと思う。

「医療」の論文賞の名称が塩田賞と呼ばれることについてもなんの抵抗もなく編集委員の間できまったことであった。また医務局長らの御配慮の下に塩田賞の副賞として塩田先生のプロフィールを刻んだメダルが受賞者に贈られることになったことも私ども一同の非常な慶びである。そして塩田賞の第 1 回の記念すべき授賞が仙台の第 23 回総合医学会の総会の席上で行われた。

(熊谷 謙二 記)

医療 第 22 巻 9 号 編集余滴より